

— 基調講演 —

東京オリンピック・パラリンピックに向けて

内閣官房 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会推進室 参事官補佐 鈴木香織氏



基調講演では、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催概要、開催決定後の動き、組織体制などの説明に続いて、大会開催に伴い国の対応が期待される事項について、セキュリティ・安全安心、復興・地域活性化、輸送、バリアフ

リー、文化・環境など、項目ごとに進捗状況が紹介されました。

このうち大会と連携した環境対策等の支援に関しては、環境配慮の推進、アスリート・観客にやさしい道づくり、大会と連携した水素・燃料電池の活用、スマートコミュニティの展開などについて説明いただきました。

また、2013年1月に東京2020オリンピック・パラリンピッ

ク招致委員会がIOC(国際オリンピック委員会)本部に提出した立候補ファイルの14項目の中に「環境」が位置づけられていることが紹介されました。具体的には、最高の環境基準を推進するためのプラットフォームとして、都市の持続可能性の新しいモデルの提示、環境への影響が少ない省エネルギー型の会場配置と施設整備、都市の中心における新たな緑の空間の創出、循環型の大会運営などの事項が盛り込まれています。

講演後の質疑応答では、サステナビリティの推進に関する組織体制、物品等の調達における環境配慮の枠組み、再生可能エネルギーの利用促進に向けた対応、NPO・NGOの参画、国民の環境意識の向上に向けた情報発信など、さまざまな観点から質問が出され、参加者の関心の高さがうかがえました。

— グループディスカッション —

東京オリンピック・パラリンピックを機にグリーン購入をどう広げるか

東京オリンピック・パラリンピックを契機に持続可能な社会の形成に大きく踏み出すために何ができるのか。グループディスカッションでは、基調講演を受け、参加者の皆様がそれぞれの立場から、「東京オリンピック・パラリンピックを機にグリーン購入をどう広げるか」をテーマに話し合いました。オープンで自由な会話を通して生き活きとした意見交換が行われ新たな発想が生まれることを期待したいという考えから、ワールド・カフェという方法によりディスカッションを進めました。以下に、各グループの主な意見を紹介します。

【グループディスカッションにおける主な意見】

- 環境ラベルを通じてグリーン購入の実践を促すだけでなく、環境負荷が大きいものを市場から無くすることも大切。
- キーワードは「食」。はじめの一歩として、お寿司屋さんで寿司ネタの産地を一言聞いてみる。
- 新技術により環境負荷の総量を減らし、シェア、レンタルなど、モノを所有しない生活に大転換する。



- 世界のアスリートにグリーン購入を実践してもらい、グリーン購入を実践する楽しさ・プライド・満足感が得られる社会づくりを目指す。
- 家庭の環境会計を定量化し、上位の家族にオリンピック入場券をプレゼントするなど、「環境」だけでは行動しない人を振り向かせる仕掛けを考える。
- 気候変動により近年の夏のような豪雨が発生した場合、会場が水浸しになる心配があり、危機感を持っている。
- 気候変動は待たなしの状況。GPNが率先して、一人ひとりがグリーン購入を実践するよう国民運動にする。
- 2020年の社会を描き、そこからバックキャストで私たちが何をやるべきなのかを考える。

